

今週の為替相場見通し(2021年10月18日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		112.18 ~ 114.47	114.25	112.50 ~ 116.00
ユーロ	(ドル)		1.1522 ~ 1.1624	1.1599	1.1500 ~ 1.1650
(1ユーロ=)	(円)		129.85 ~ 132.76	132.56	132.00 ~ 133.50
英ポンド	(ドル)		1.3568 ~ 1.3773	1.3745	1.3700 ~ 1.3900
(1英ポンド=)	(円)	*	152.73 ~ 157.42	157.08	156.00 ~ 158.50
豪ドル	(ドル)		0.7292 ~ 0.7440	0.7419	0.7370 ~ 0.7550
(1豪ドル=)	(円)	*	81.86 ~ 84.93	84.79	83.75 ~ 86.25

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 山口 朋子

(1) 今週の予想レンジ: 112.50 ~ 116.00 円

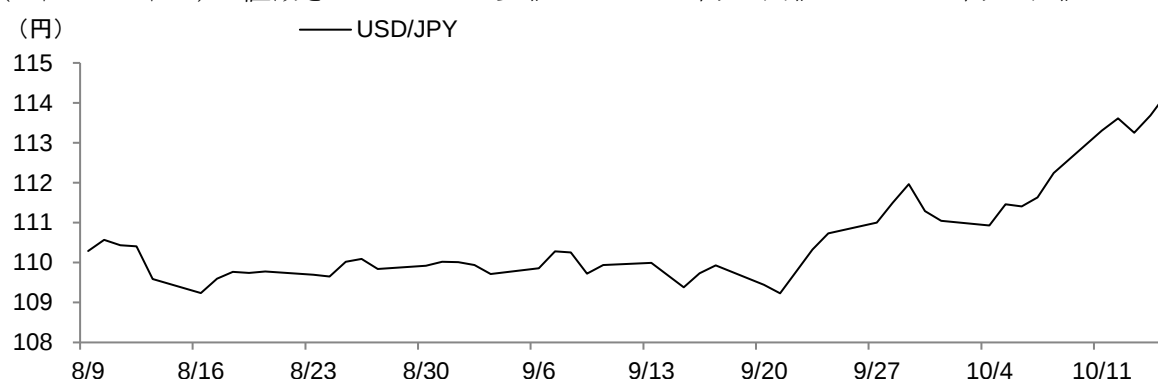
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は大きく上昇し、約3年ぶりの高値を付けた。週初11日は週安値圏である112円台前半で取引を開始。この日は米国市場が休場ながらも日本や中国株の反発を背景にドル買優勢の展開となり、ドル/円は113円を突破。翌12日もドル買いの流れが続くと113円台後半まで上昇した。13日に発表された米9月消費者物価指数が概ね市場予想通りだったことや、堅調な米30年国債の入札を受け、米10年債利回りが低下し、ドル/円も113円台前半まで下落。同日発表された9月のFOMC議事要旨では、11月のFOMCでテーパリングが決定される場合、11月半ばもしくは12月半ばに150億ドル/月のペースでテーパリングが開始される可能性が高いことが明らかになった。14日は米新規失業保険申請件数が2020年3月以来最少だったことや、米9月卸売物価指数が市場予想を下回ったこと、さらに米大手金融機関による好決算を背景に米国株が上昇し、リスク選好の動きから円が売られた。15日に発表された米9月小売売上高が予想に反して増加すると、米株が続伸し、ドル/円は一時114.47円と約3年ぶりの高値を更新した。その後、114円台前半で越週した。

今週のドル/円は底堅い展開を予想する。市場はFRBの年内のテーパリング開始、さらに来年9月までの利上げを完全に織り込んでいる。今週は多くの米当局者が発言するが、タカ派的な発言が続き、来年の複数利上げを織り込む展開となるとドル/円はもう一段の強い上昇圧力が加わるだろう。さらに、資源高・株高が続いておりドルが選好される展開が継続すると予想。ただし、114円台後半から115円丁度近辺までは過去も強力なレジスタンスとして機能してきており、さらに115円台からの本邦輸出企業からのドル売りが入ると予想されることから上昇ペースは鈍化すると予想する。また、先週IMFが発表した経済見通しで、先進国全体の今年の成長を+5.6%から+5.2%に下方修正している。米国の成長見通しを1%下方修正しており影響が大きい。足許堅調な米指標、米企業決算が続いているが、今後指標の悪化がみられる場合には、リスクオフの円買いが優勢となる可能性がある。ドル/円は急上昇してきたため、指標の悪化による急激な円高には注意が必要だろう。今週の注目の経済指標は19日(火)米9月住宅着工件数、20日(水)米地区連銀経済報告(ベージュブック)、21日(木)米9月中古住宅販売件数となっている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(10/11~10/15)の値動き: 安値 112.18 円 高値 114.47 円 終値 114.25 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 小野崎 順基

(1) 今週の予想レンジ: 1.1500 ~ 1.1650 132.00 ~ 133.50 円

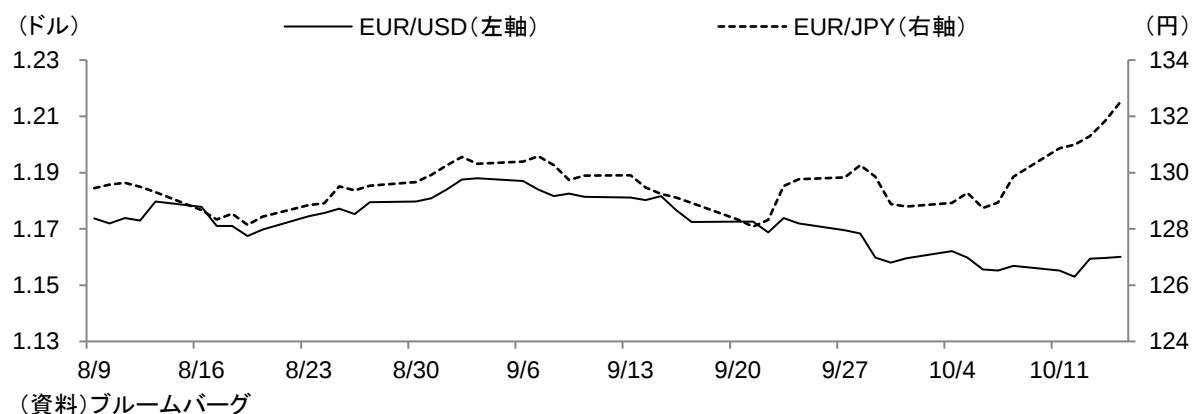
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は週半ばに年初来安値を更新した。週初11日、1.15台半ばでオープンしたユーロ/ドルはリスク選好のドル売りが優勢となり1.15台後半まで上昇した。上昇一巡後は米国休場の中でやや方向感に欠ける値動きとなった。12日には欧州株の軟調推移や独10月ZEW景気期待指数の冴えない結果を受け、1.1522まで続落、先週に続いて年初来安値を更新することとなった。13日にはポジション調整のドル売りが進む中、ユーロ/ドルは小幅に値を戻した。その後、米9月CPIの結果を受けてドル買いが見られる局面には下落するも、米金利の低下やポジション調整によるユーロ買いの動きにサポートされ1.15台後半まで反発した。14日には米長期金利の下落と欧州株の堅調推移が追い風となり週高値の1.1624まで上昇した。15日は続伸したもののやや上値の重い展開。日本時間夕刻に一時1.1619ドルをつける場面もあったが前日高値を抜けることなく弱含む展開。ポンドや資源国通貨が買われる中でユーロ安が進んだほか、良好な米9月小売上高の結果も1.15台に下落する展開となった。

今週のユーロ相場は底堅い展開を想定する。ドル/円相場の大きな上昇が目立つ展開ではあるが、あくまで円売り・資源国通貨買いというものでありユーロが大きく売られる流れとはなっていない。現在のマーケットテーマとしては「中銀政策」と「原油価格」が注目材料であると考えており、そうした中で日米金融政策の違いからの円売りならびに原油価格上昇に伴う資源国通貨買いが見られている。その点、日欧の金融政策についても正常化スピードの違いは意識されやすいものの、インフレ率の上昇等への警戒感から先々ECBがPEPPの縮小に動く公算は高くユーロ相場が大きく崩れる展開は想定し難い。ただし、ドイツにおける社会民主党主導の連立政権の組み合わせへの警戒感や英国とEUとの北アイルランド議定書をめぐる議論が難航。この点はユーロ相場にとって上値を抑える要因となり注視する必要がある。また、その中でユーロ圏10月製造業・サービス業PMIの速報値には注目となる。ユーロ圏のインフレ率は天然ガス価格や原油価格の上昇を受けて13年ぶりの高水準を記録しておりインフレ高進の元での10月の景況感を見極めることとなりそう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(10/11~10/15)の値動き: (対ドル) 安値 1.1522 高値 1.1624 終値 1.1599
(対円) 安値 129.85 高値 132.76 終値 132.56



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.3700 ~ 1.3900 156.00 ~ 158.50 円

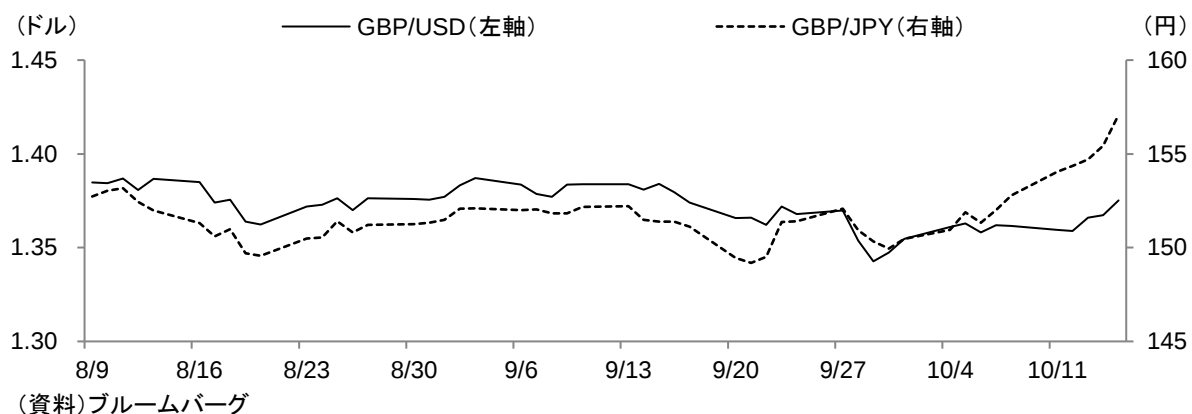
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、上昇。並行した円全面安を受け、対円では2016年の英国民投票(EU離脱選択)来の高値を更新したが、対ドル、対ユーロでの上昇は限定的にとどまった。ポンド上昇の最大の要因は、急速に強まった英中銀早期利上げ観測と思われ、それに火を点けたのは、週末(9日)、英中銀ベイリー総裁、同金融政策委員会のソーンダース委員が、相次いで英インフレに強い警戒感を示したことと考えられた。従来から鷹派的姿勢を明確にしてきたソーンダース委員はともかく、ベイリー総裁までが「(インフレが)永続的に定着することを回避する必要がある」と述べたのには、早期利上げに向けた強いシグナルと受け止めることができただろう。ただ、ポンドが上昇基調を明確にしたのは週央以降のことで、週初、対ユーロでは横ばい、対ドルではむしろ軟調気味の滑り出しを見せた。週末に聞かれた一連の発言をポンド上昇の主因とするには、些か不自然な値動きとも言えたのではないかと。並行した円全面安は、①燃料価格の急騰による本邦貿易/経常収支の悪化懸念や ②世界中がインフレ懸念に包まれる中、日本だけが引き続きデフレ傾向から脱却できない事実(将来的な金利差拡大観測) ③船出したばかりの岸田内閣の政権舵取りに対する不透明感(再分配を主眼とした財政政策が、少なくとも一時的に景気を押し下げる懸念など)など、複合的な要因が相互に作用した結果と考えることができた。週後半のポンド上昇加速も、英中銀早期利上げ観測という追い風があつてこそという背景はあつても、実際のポンド買いはポンド円の155円乗せ、新値更新(上述)期待に群がって進んだ値動きのように感じられた。

今週の英ポンド相場は、堅調気味の横ばいを予想。英中銀が利上げを急ぐ理由は理解できないでもないものの、インフレ率(CPI)が+5%を優に超える米(米連銀)が、当面の利上げ着手の気配を見せないのに比して、同+3%台にとどまる英(英中銀)が、年内利上げを本気で検討しているとしたら、少なからぬ違和感を拭えない。しかも、英では、燃料価格(ガス、電力)高騰や人手不足が人々の日々の生活に深刻な懸念を投げかけている一方で、スナク財務相は、社会保険料率引き上げ(実質増税)など(コロナ禍下のばら撒き政策から)財政引き締めへ転じる姿勢を明確にしている。先行き景気不安、財政引き締め、仮に早期金融引き締めと三拍子揃ったところで、英経済は果たして腰折れせずにいられるのだろうか。勿論、年内利上げ開始を所与のものとするなら、英中銀の政策目標に雇用(景気)への配慮が含まれないこと、英中銀の政治からの独立、物価高騰は成長阻害要因(実質的な増税)で、いずれ必要な利上げなら、早期に着手した方が最終的な利上げ幅は小さくて済むといった点などは、早期利上げを正当化し得る。市場は既に11月4日(木)の15bp利上げ(利上げ後英中銀基準金利は0.25%)をほぼほぼ織り込んでしまっているが、英中銀が言葉で示しているほど積極的な行動は取れない可能性は、目先のポンド調整安要因になりかねないのではないかと。一方で、今しばらくのポンド堅調を中心に見るのは、この間、対円だけでなく、対ユーロでも19か月超ぶりの高値を更新したポンド高の勢いを無視できないから。とりわけ、足下円安のスピードには、物価格差(購買力平価)や本邦経常収支動向などに鑑みて、正直、驚きを隠せないが、この値動きの背景には、110円(対ドル)前後の水準でドル売り/円買いを仕掛けた向きが、112円を明確に上抜けたことで、持ち高の解消(円売り戻し)を強いられているという経緯があつたのではなかろうか。108~112円を中心とした横ばいの滞空時間(7か月)から察するに、円買い持ちの解消が1週間あまりできれいさっぱり片付いたと考えるよりは、(対ポンドも含め)今しばらく煙り続けると見込んだ方が妥当なように思われる。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(10/11~10/15)の値動き: (対ドル) 安値 1.3568 高値 1.3773 終値 1.3745
(対円) 安値 152.73 高値 157.42 終値 157.08



4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 安藤 愛

(1) 今週の予想レンジ: 0.7370 ~ 0.7550

83.75 ~ 86.25 円

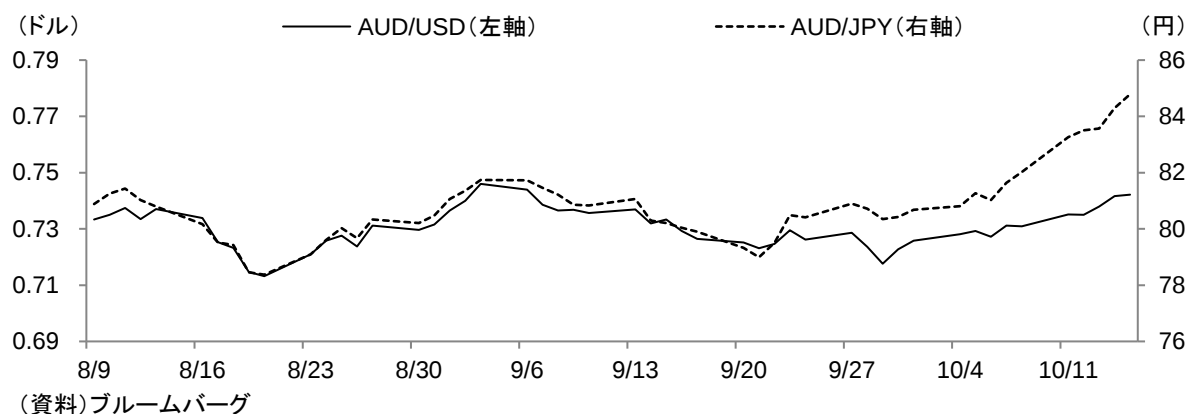
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は0.72台後半から0.74台まで上昇。11日、商品価格や豪金利上昇を背景に0.73台半ばまで上昇。12日、好調な米10年国債入札を受けて長期ゾーンを中心に米債利回りが低下すると、一時1か月振り高値0.7384まで上昇。その後、翌日の米CPIを警戒した米ドル買いに押されて、0.73台半ばまで下落。13日、この日発表された米9月CPIは前月比ベースで予想を上回る伸びとなり、米ドルは買いで反応し、豪ドルは瞬間的に安値0.7324まで下落。一旦1.6%近辺まで上昇した米10年国債利回りが、その後すぐに反転して1.52%台まで低下すると、米ドルも売りに転じ、豪ドルは0.7380近辺まで上昇した。14日、この日発表された豪9月雇用統計は労働参加率の低下により失業率は予想程悪化せず、又就業者数は前月に続き大幅減となったが、正規雇用者数は増加しており、まちまちの結果となった。豪ドルは若干弱含むも大崩れすることなく、0.73台後半で底堅く推移。その後、米企業の好決算を背景に米主要株価が大幅上昇する中、リスク選好の流れに乗る形で上昇し、0.7420近辺まで上昇。15日は、予想以上に強い米9月小売売上高や堅調な企業決算を背景に米株価が上昇するも、豪ドルは頭重く小動きに終始で0.7420近辺で越週。

今週の豪ドルは底堅い値動きを予想する。NSW州はコロナワクチン2回接種完了者の割合が80%を超え、当初25日(月)に予定されていた追加緩和が18日(月)から開始された。11月1日(月)からは、海外からNSW州への入国数制限も撤廃されるが、現段階の対象者は豪州市民か永住権保有者のみ。学校も一部の学年では18日(月)から対面授業が再開する。メルボルンのロックダウンは21日(木)に解除することが発表されており、豪州全体で徐々に規制緩和が進んでいる。米国でも好決算や債務上限引き上げ法案可決等を背景に、S&P株価指数は50日移動平均線を回復し、上昇トレンドへの回帰している。今週の豪ドルは国内外リスク選好の動きを受けて、底堅い値動きを予想する。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(10/11~10/15)の値動き: (対ドル) 安値 0.7292 高値 0.7440 終値 0.7419
(対円) 安値 81.86 高値 84.93 終値 84.79



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。